



# 南舞岡小だより

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (TEL823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>

## One for All, All for One

校長 平石 英一

爽やかな風がそよぎ、秋らしくなってきました。10月を迎えます。年度の折り返しです。

さて、オリンピック・パラリンピック、サッカーワールドカップと並んで、世界の三大スポーツ大会とされる、ラグビーワールドカップ世界大会が、アジア初開催となる日本で、先日開幕しました。全20か国が4つのグループに分かれ、迫力のあるリーグ戦を展開しています。日本は幸先よく、ロシア戦に勝利しました。今号は、そのラグビーの精神について触れたいと思います。

ラグビーのチームプレイ精神を表すときによく使われる「One for All, All for One」。一般的には、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と解釈され、有名な格言として知れ渡っています。しかしながら、元全日本監督の故平尾誠二氏は、この解釈は間違いであると伝えています。厳密に言えば、後半の「All for One」が誤訳されて伝えられていると述べているのです。平尾氏によれば、後半の「One」の意味は、「一人」ではなく、「勝利」を意味する「Victory」である、つまり、「One for All, All for One」は、「一人はみんなのために、みんなは勝利のために」が正しいというのです。これはいったいどういうことなのでしょう。

平尾氏は続けます。

『みんなが一人を助けることは大切だけれど、本当にそれだけでよいのか。弱い立場にある一人を支えたり、自立できない一人を励ましたりするだけで組織は強くなれるのか。』

さらには、『どんな優秀な選手でも一人でできることには限界がある。しかしチームになれば、1+1が3にも5にもなる。これがチームプレイの素晴らしいところだ。ただしそれには前提条件がある。それは一人ひとりが自立した大人であることが必要だ。一人ひとりがきちんと「勝利」に向かって自分の足で立っていること、チームの一員として他のメンバーに甘えたり、寄り掛かったりしない、大人の集団であることが必須なのだ。チームプレイの本質である相乗効果とは、一人前以上のプロフェッショナルが集まったときにしか発揮されない。烏合の衆の寄せ集めでしかない偽チームが行うチームプレイは、「助け合い」ではなく「助けてもらい合い」でしかない。だからこそ、僕たちはまず、自分の足で立つことから始めよう。一人で立てもしないうちから、「一人のために (All for One)」と、「助けられ合い」をするのはやめよう。まずは自分の足で「勝利」へと向かって立つ。そして、「相乗効果」を発揮して「勝利」をつかむのだ。』と。

「みんなが勝利に向かって…」という解釈は、学校現場においてはそぐわないかもしれませんし、そのような学習活動も限定的です。さらには、5月に行われた「春風スポーツフェスティバル」やなかよし活動での「長なわ」のように、技や動きの習得に時間がかかる子に対して、周りの子が助言し励ますことで、その子の力が高まるようになるなど、大勢で一人をサポートすることが必要とされる、All for One＝「一人のために」という状況もあります。ではここで、平尾氏の言う「勝利」を「目標」に置き換えるとどうでしょうか。一人ひとりが自分の力を伸ばし、その力を合わせながら一つの目標 (One) に向かって突き進む…。

学校教育での All for One は、平尾氏の解釈を広げ、一人ひとりの子どもたちにとって、「みんなは一人のために」、そして「みんなは目標のために」を意味する言葉でなければならないと思っています。